

「個別の教育支援計画」の様式に決まった形はありません。保護者・本人とともに作成し、子ども本人のために支援をつないでいきましょう。様式は、県北教育事務所のHPからダウンロードできます。



**【様式例】 個別の教育支援計画**（福島県教育庁特別支援教育課版）

平成 年 月 日 記入者（  
平成 年 月 日 記入者（

ふりがな	〇〇市立 〇〇小学校 〇年 〇組		
氏名	〇 〇 〇 〇	(男)・女	生年月日 平成〇〇年〇月〇日

本人の願い（本人の良さ・興味関心・遊び・将来の夢など）

- ・
- ・
- ・

保護者・本人の願いや希望する配慮を学級懇談等の機会に確認し、記入します。懇談の記録等から転記しておきましょう。

保護者の願い（学校への要望・将来の願いなど）

- ・
- ・
- ・

諸検査の記録（検査名、結果、実施日等）

- ・
- ・
- ・

諸検査の結果は、本人の得意なところ、苦手なところ、学び方の特性等を把握できる貴重な情報です。保護者の了解が得られる場合には提供を受け、支援に生かしましょう。

支援の目標

- ・
- ・

保護者・本人との話し合いや関係機関等からの意見等を踏まえ、「本人に必要なこと」「大事にしたいこと」「配慮が必要なこと」等から長期的な目標（3年程度が目安）を設定し、支援の方向性を明確にします。

	支援の手立て（支援内容・方法、配慮事項など） ※合理的配慮	評 価
学 校	<p>学校で提供する「合理的配慮」については、①「教育内容・方法」②「支援体制」③「施設・設備」等の3観点で検討し、保護者と話し合いの機会を持って共通理解を図りましょう。合意した内容を「合理的配慮」として明記し、実践しながら評価して、子どもの発達状況や環境の変化等に応じ見直していくことが大切です。 *様式に合理的配慮の記入欄を設けている学校もあります。</p> <p>目標を達成するために、<u>学校、保護者、関係機関</u>がどのように支援するかを記入することで、役割分担が明確になります。</p>	
家 庭		
関係機関		

引き継ぎ事項

- ・

継続して行う支援や再検討する事柄について記入し、就学や進級・進学に際しての引継ぎ等に活用しましょう。進学先等への引継ぎには保護者の同意が必要であるため、計画を間にはさみ、日頃から保護者と話し合っておくことが大切です。

「個別の教育支援計画」をもとに作成する、具体的な指導に関するきめ細かな計画が「個別の指導計画」です。



【記入例】個別の教育支援計画

平成 年 月 日 記入者 ( )  
 平成 年 月 日 記入者 ( )

ふりがな	ふくしま たろう	〇〇市立 〇〇小学校 〇年 〇組		
氏名	福島太郎	(男)・女	生年月日	平成〇〇年〇月〇日

本人の願い (本人の良さ・興味関心・遊び・将来の夢など)  
 ・ 興味のあるものには集中する (電車の図書やDVDを見るが好き)。  
 ・ 図書室にある電車の本をたくさん読みたい。  
 ・ 友達とけんかしないで仲良く遊びたい。  
 ・ お父さんのように、がんばって働ける大人になりたい。

保護者の願い (学校への要望・将来の願いなど)  
 ・ 自分の思い通りにならなくても、パニックを起こさない。  
 ・ 自分の気持ちを表現できるようになってほしい。  
 ・ 円滑な人間関係を築けるようになってほしい。  
 ・ 就職して、自立した生活を営めるようになってほしい。

「就学サポートシート」(福島市)  
 「就学応援シート」(川俣町)  
 「ハーモニー」(伊達市)  
 「そだちのきろく」(安達地区)  
 「えがお」(大玉村)

諸検査の記録 (検査名、結果、実施日等)  
 ・ 平成〇〇年 3歳 〇〇との診断を受ける。<〇〇療育センター>  
 ・ 発達検査の結果  
 WISC-IV (IQ〇〇 VCI〇〇、PRI〇〇、WMI〇〇、PSI〇〇)  
 平成〇〇年〇月〇日実施  
 \*特記事項は資料別送

市町村の保健・福祉部局で作成している「相談支援ファイル」や「就学支援シート」等も、果たす役割は「個別の教育支援計画」と同じです。保護者が持参した場合には、保護者の了解の下、必要な部分を転記したりコピーして綴ったりして、活用できるようにしましょう。

支援の目標  
 ・ 言語理解の苦手さやこだわりの強さなどの特性を踏まえた学習環境を設定することなどにより、学習への意欲を高め、基礎的・基本的な学力を身につける。  
 ・ 担任及び支援員の支援を受けながら、友達と一緒に活動する経験を重ね、人とかかわる上でのルールや社会スキルを身につける。

	支援の手立て (支援内容・方法、配慮事項など) ※合理的配慮	評価
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>発問や指示は短く分かりやすい言葉で行う。教科等では基礎的・基本的な内容を重視する。</li> <li>視覚を活用した情報を提供する (写真や図、実物等の活用)。主に支援員が提示するが、学級全体に向けても配慮する。</li> <li>見通しがもてるように配慮する。</li> <li>興奮がおさまらない時に気持ちを切り替える場所を確保する。</li> <li>ソーシャルスキルの指導内容を取り入れる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>間違いが続くと途中で課題を投げ出すことがあったため、課題の内容や量を調整するようにした。</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>規則正しい生活を行い、安定して過ごせるようにする。</li> <li>行事等の際は、学校と協力し、活動予定表を作成する。</li> <li>学校でトラブルがあった時には、本人の話を聞いた上でどうすればよかったかを話し合う。</li> </ul>	全ての項目を記入する必要はありません。子どもの支援に必要な項目について記入していきましょう。
関係機関	<ul style="list-style-type: none"> <li>週1回〇〇小学校の通級指導教室に通級。自分の気持ちのコントロールの仕方や適切な気持ちの伝え方について指導を受ける。連絡帳や在籍校訪問で通級担当教員 (〇〇先生) と連携し、学校での指導に生かす。</li> <li>2ヶ月に1回 〇〇療育センターに通院 (診察と保護者への養育の助言)。必要に応じて通院時に担任が同行し、助言を受ける。</li> </ul>	

引き継ぎ事項  
 ・ 思い通りにならない時の対処法が理解できつつあるので、できるだけ自分で対処できるよう支援していく (自分から申し出てクールダウンの部屋に行く。時間は「5分以内」という約束の範囲内で自分で決める等)。